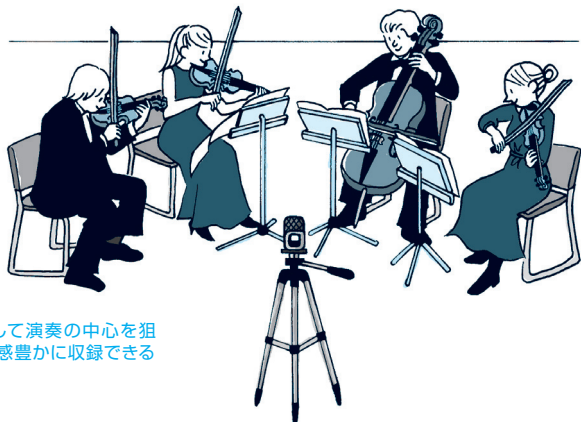


[2-10] リアマイク選択グラフィック
左右マイクが120度配置されるリアマイク



[2-11] 少し離して演奏の中心を狙えば、ステレオ感豊かに収録できる

また周囲の音を広く拾うため、屋外で野鳥のさえずりを狙うなどといったフィールドレコーディングにも向くマイクパターンである。音源の移動もはっきりと捉えるため、聞いてみると臨場感溢れる音になっていることに驚くはずだ。

■ 前後マイクを同時に使う

H2では前後マイクを同時に使用して収録するマイクパターンも2つ用意されている。まずは「SURROUND 2CH」、これは前後のマイクを使用してステレオ収録するものだ[2-12]。たとえばH2を中心としてフロントマイク側にボーカリスト、リアマイク側にギタリストが立って演奏すれば、通常のフロント／リアマイクで収録したときとは異なり、どちらも正面から捕えたはっきりとした音で録音することができる。

もうひとつは「SURROUND 4CH」、これはH2を中心として周囲360度の音をすべて集音し、サラウンド収録するというもの[2-13]。非常に臨場感溢れる収録が可能だ。なおこのマイクパターンではほかとは異なり、録音ファイルは2つのステレオWAVファイルとなる。この4CHサラウンドについては後に詳しく説明する。



[2-12] サラウンド2chグラフィック
前後マイクを同時に使用してステレオ収録するSURROUND 2CH



[2-13] サラウンド4chグラフィック
H2単体でサラウンド収録が可能となるSURROUND 4CH

■ モニタ設定の変更

H2はヘッドホン端子にヘッドホンを接続することで、録音待機状態での録音レベル調整、そして録音中にモニタすることが可能だ[2-14]。もちろんヘッドホンモニタしなくても録音はできるのだが、人間の耳というのは無意識うちに不要な音を排除する傾向がある。そのため録音に確実に期するなら、マイクを通した音をヘッドホンモニタすることが基本となる。

このモニタは特に設定しなくともH2が録音待機、または録音中の状態であれば行うことが出来るが、設定を変えれば停止状態でも常にモニタ機能を使うこともできる[2-15~16]。好みに合わせて設定しておこう。



[2-14] ヘッドホンを繋げば、録音待機または録音中にヘッドホンモニタできる



[2-15] メニュー画面を開き「MONITOR」を選択してRECキーを押す



[2-16] ONを選択すれば、H2が停止状態でも常にモニタ可能となる